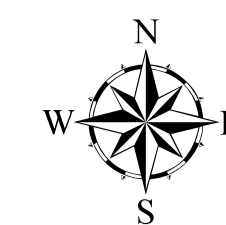


想定東南海・南海地震による熊野灘至潮岬津波防災情報図広域版（進入図）

計算条件：最高水面・150mメッシュ

隆起量：平均53cm（-67cm～253cm）

この図は、想定東南海・南海地震により発生する津波を150mメッシュで計算した概要版であり、港湾や沿岸域の情報は必ずしもシミュレーション結果が正確に反映されていません。なお、津波防災情報図（50mメッシュ）のある海域はそれを参考にしてください。



1:150,000

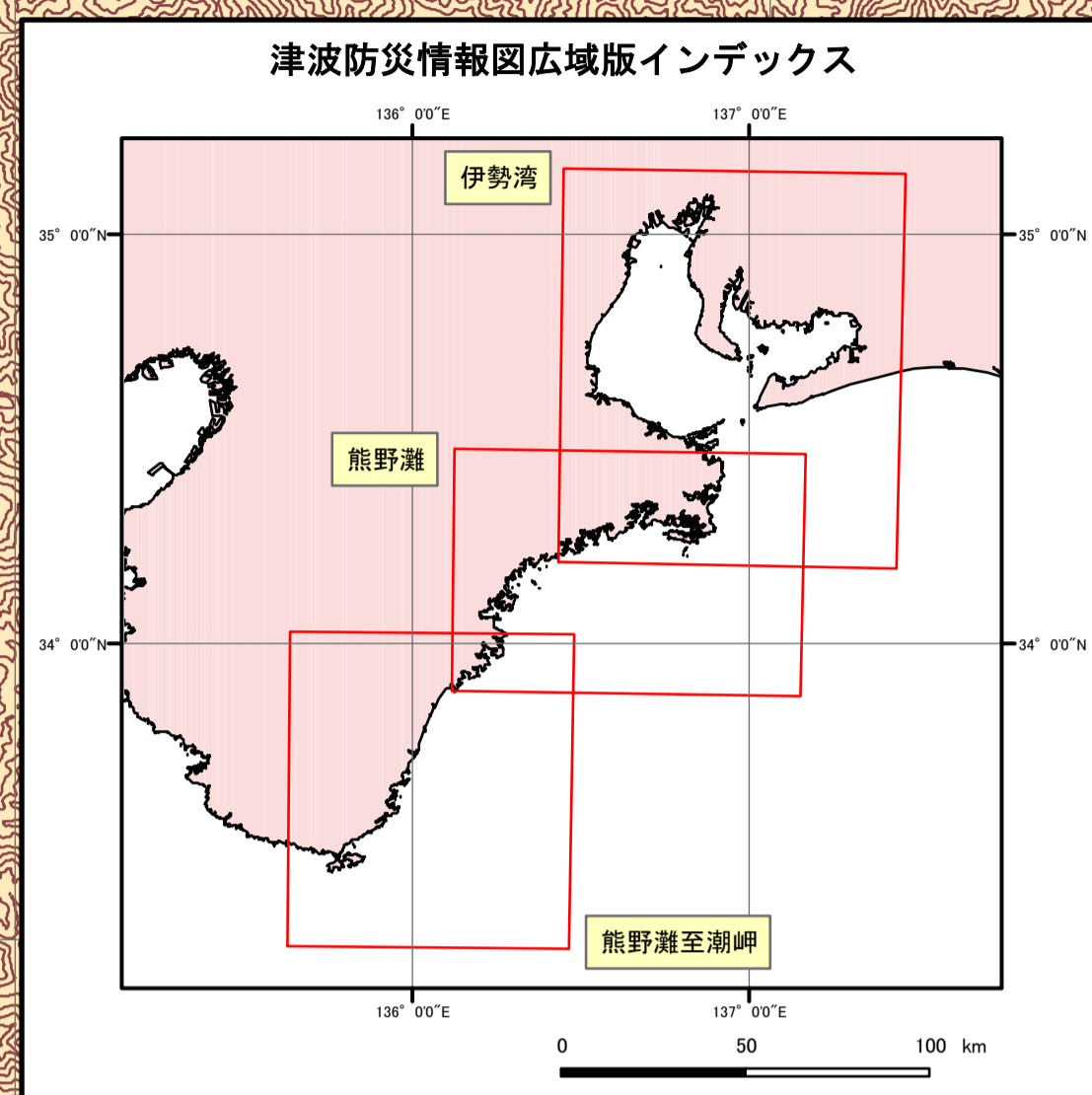
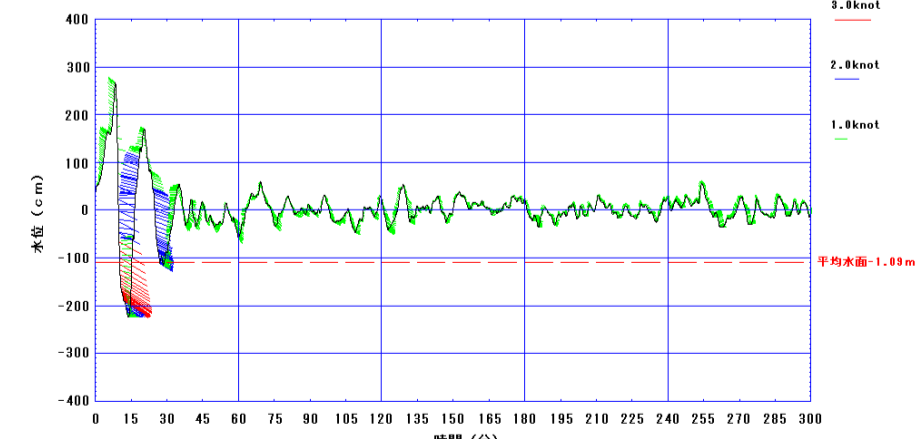
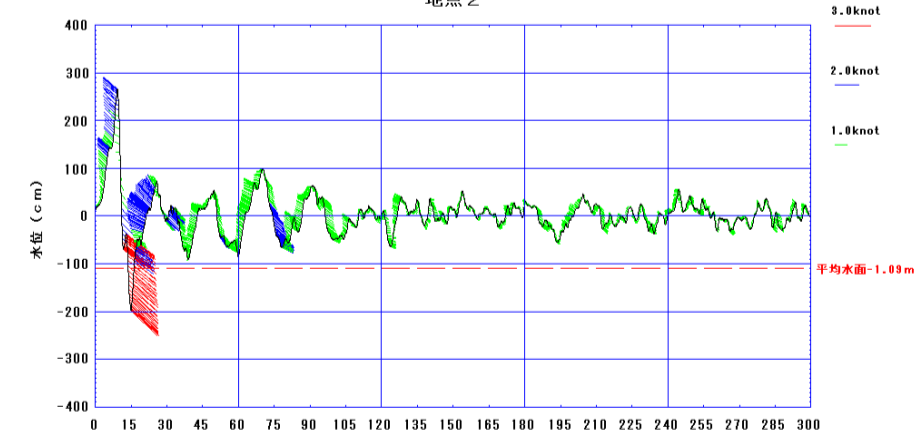
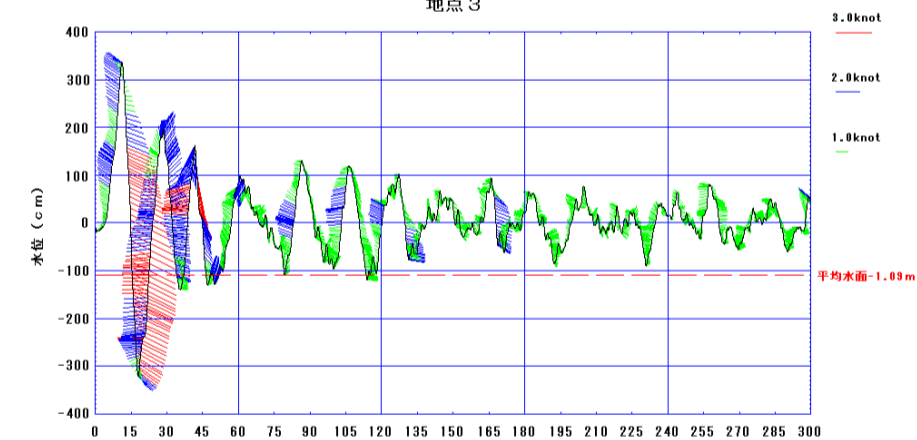
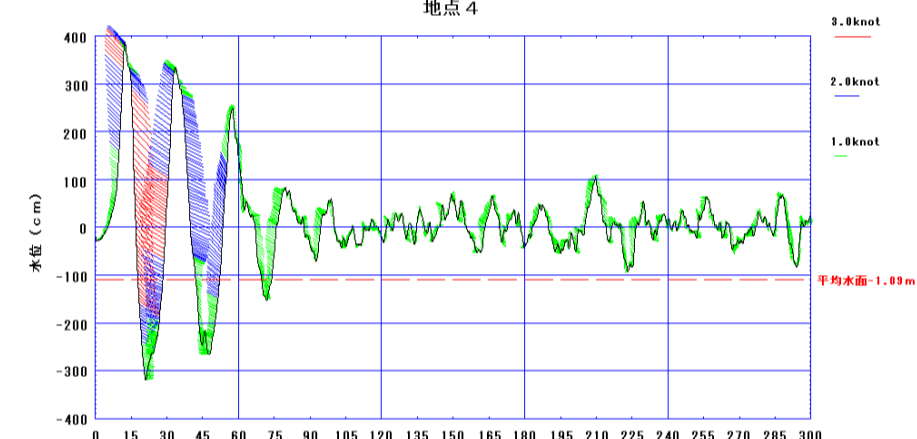
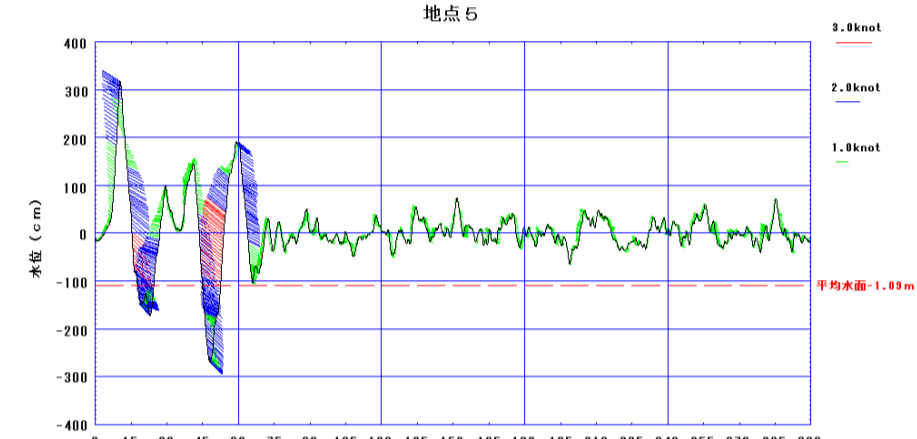
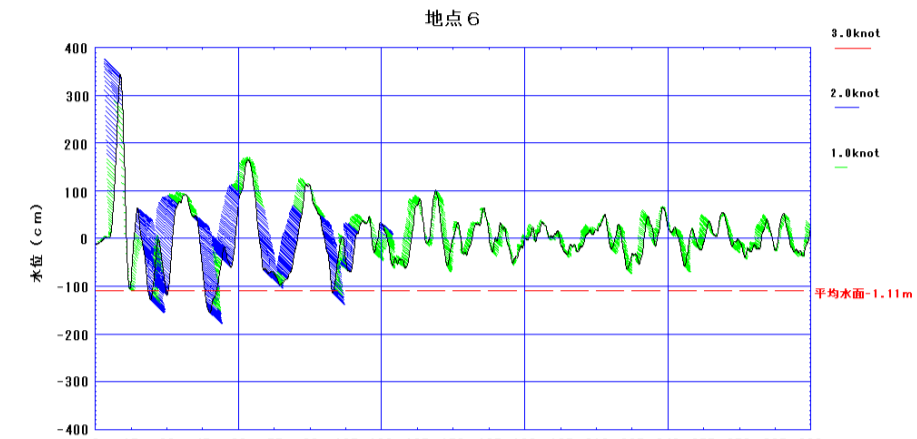
座標系：メルカトル図法 (Lat 35)
測地系：世界測地系 (WGS84)

経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。

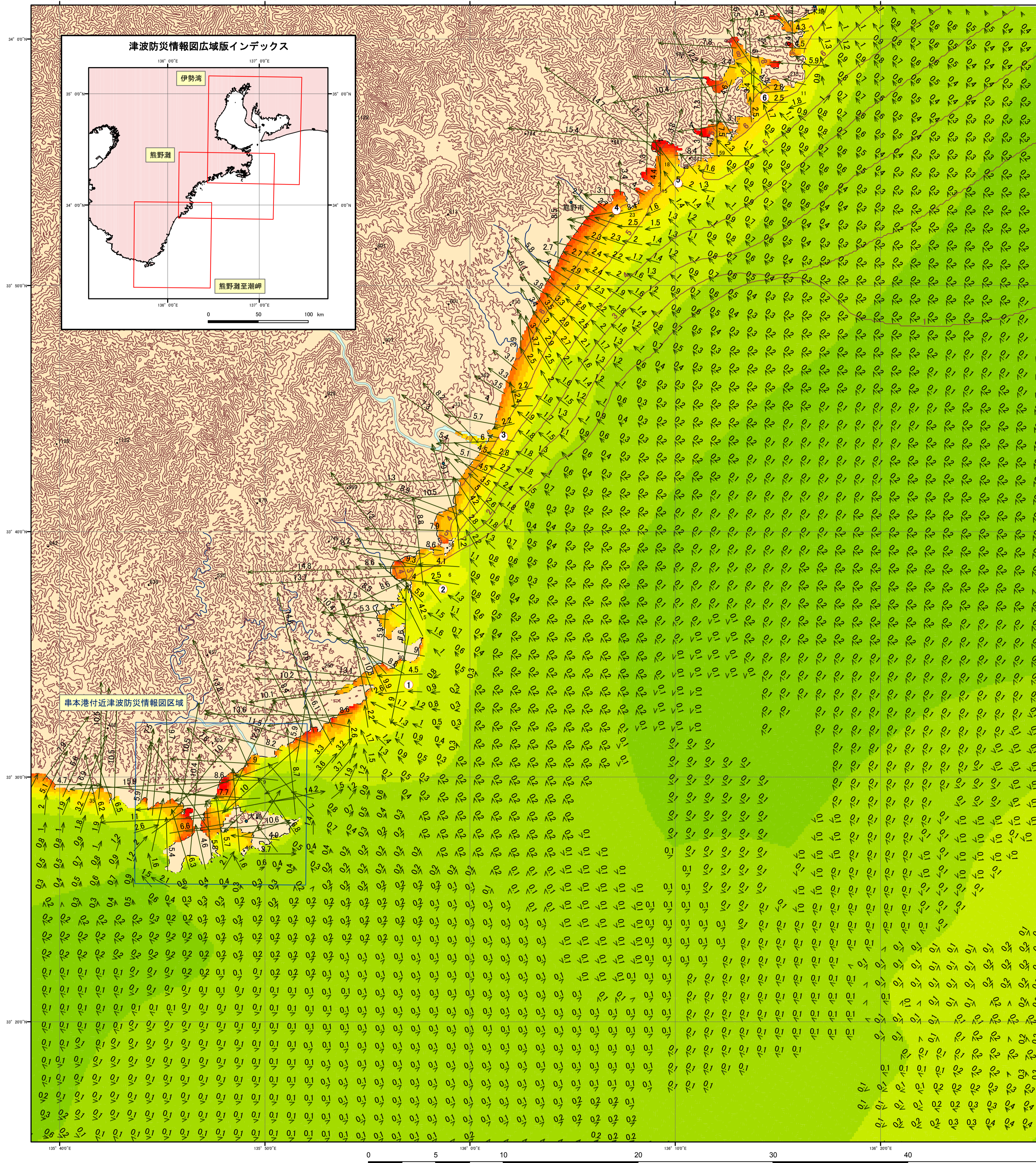
- この図は、最高水面を基準面（0cm）として、5時間の津波の水位変動と流速ベクトル（流速・流向）を表示しています。
- 0分（発災時）の水位値は、その地点における地盤変動（隆起又は沈下）を表示しています。
- 時間による潮汐の変化は考慮されておらず、津波は計算条件の基準面に収束します。
- 経時変化図の図表事項

平均水面・・・潮汐が無いと仮定したときの海面（その海域の平均水面）を赤破線で示す。
水位変動・・・刻々と時系列で変わる津波の水位変動を黒線で示す。
流速ベクトル・・・水位変動時における水平方向の海水の動きを、流速（長さ・色）と流向（360°方位）で示す。

流速
赤：2.1ノット以上
黄：1.1ノット～2.0ノット
緑：1.0ノット以下



串本港付近津波防災情報図区域



凡例

— 水位上昇 (+10cm) となる等時線 (分)

○ 経時変化図出力点

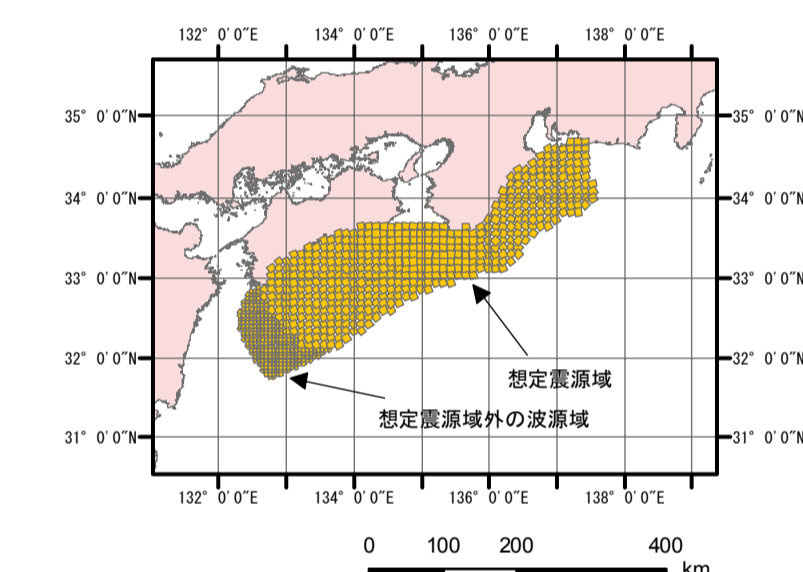
最大水位上昇

- 600～最大840cm
- 550～600cm
- 500～550cm
- 450～500cm
- 400～450cm
- 350～400cm
- 300～350cm
- 250～300cm
- 200～250cm
- 150～200cm
- 150cm未満

進入時最大流 (knot)

- 3knot
- 2knot
- 1knot

想定震源域と波源域の位置

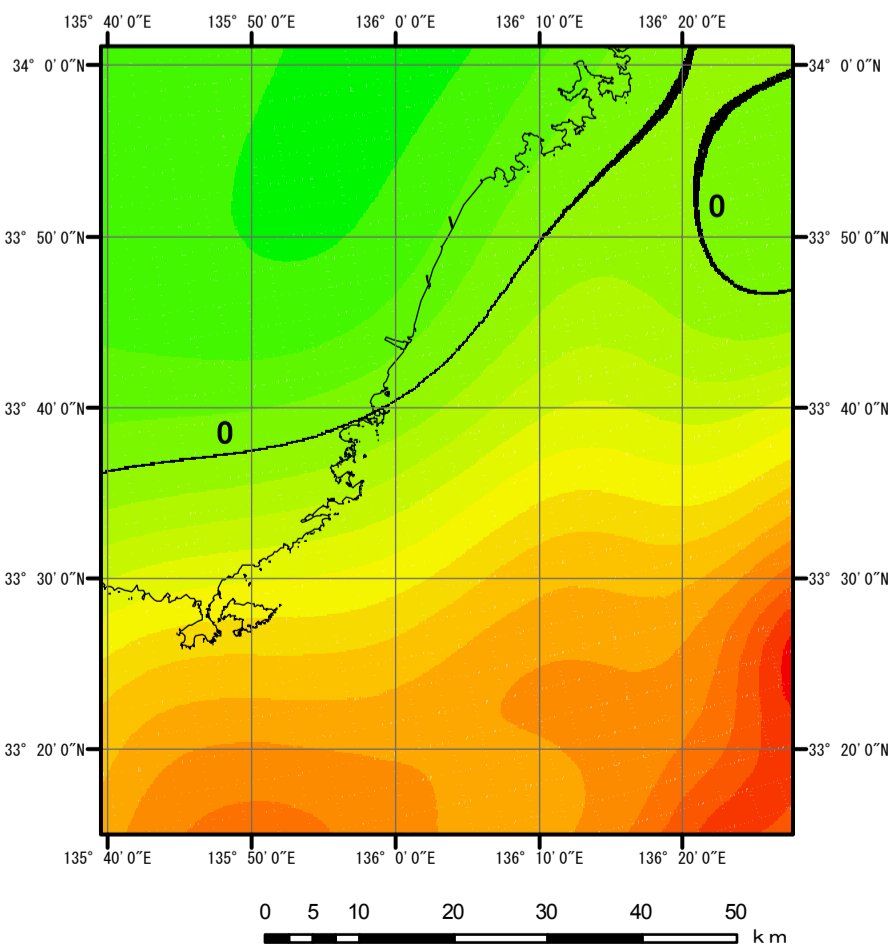


マクロ的に見たパラメータ	南海地震	東南海地震
断層面積 S (km ²)	約 36,500	約 14,500
地震モーメント Mo (N·m)	8.34 × 10 ²¹	2.15 × 10 ²¹
平均すべり量 D (m)	5.70	3.63
モーメントマグニチュード Mw	8.55	8.15

・本図は、中央防災会議「東南海・南海地震等に関する専門調査会」で公表された断層モデル及び断層パラメータを使用した。

地盤変動図

隆起量：平均53cm（-67cm～253cm）



凡例

地盤変動量

- 240～最大253cm
- 220～240cm
- 200～220cm
- 180～200cm
- 160～180cm
- 140～160cm
- 120～140cm
- 100～120cm
- 80～100cm
- 60～80cm
- 40～60cm
- 20～40cm
- 0～20cm
- 20～0cm
- 40～-20cm
- 60～-40cm
- 最大-67～-60cm

・この地盤変動図は想定東南海・南海地震で発生する地盤の隆起量を表示している。

・この図は、発災時から5時間のシミュレーションを行い作成しており、最大流速の矢印は150mメッシュ9×9（1,350m×1,350m）の81個から最大の津波（押波）の速さと方向を表示しています。
・表示されている流速矢印は津波による流速と流向のみで、海潮流の変異は考慮されていません。
・津波の到達時間を表示した等時線は、水位が10cm上昇した時点をもとに計算したものです。
・試算に使用したデータは、海上保安庁海洋情報部のJ-EG6500、J-BIRD、沿岸の海の基本図形データ及び海図を作成する際の基礎データ等を使用しています。
・陸地の情報は海図から採用しています。